

## 仙台市公民館運営審議会議事録

(令和2年8月定例会)

### ○ 日 時

令和2年8月27日(木) 午前10時00分～11時30分

### ○ 会 場

仙台市生涯学習支援センター 5階 第1セミナー室

### ○ 出席者

〔委員〕 相澤雅子委員、安藤歩美委員、市瀬智紀委員、大内幸子委員、幾世橋広子委員、齋藤和平委員、佐々木稔委員、佐藤正実委員、高橋卓誠委員、松田道雄委員、八十川淳委員

〔事務局〕 生涯学習支援センター：センター長 佐藤、センター次長 千葉、事業係長 福本  
青葉区中央市民センター：センター長 小嶋  
宮城野区中央市民センター：センター長 大石  
若林区中央市民センター：センター長 湯村  
太白区中央市民センター：センター長 渡部  
泉区中央市民センター：センター長 内海  
生涯学習部長 筒井  
生涯学習課長 田中  
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団：市民センター課長 古城

〔傍聴人〕 なし

### ○ 資 料

次第

資料1：令和2年度における市民センター事業の対応について

資料2：前回の審議会における主な意見について

資料3：本日の協議の進め方について

#### 1 開 会

(資料の確認)

事務局：本日は、11名の委員の皆様にご出席いただいております。仙台市市民センター条例施行規則第10条第3項の規定により委員の過半数である8名以上の出席を満たしておりますので、有効な会議として成立しておりますことをご報告申し上げます。

#### 2 挨拶

(センター長挨拶)

事務局：ここからの進行は会長にお願いいたします。

会長：この審議会は原則公開になっておりますが、傍聴の希望はございませんか。

事務局：本日はございません。

会長：次に議事録の署名委員です。名簿順で、前は市瀬委員でしたので、今回は大内委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

### 3 協 議

#### (1) 新型コロナウイルス感染症との共生時代の市民センター事業について

- ・事務局から、資料1により、令和2年度の市民センター事業の対応状況について、資料2により、前回審議会で出された主な意見について報告された。
- ・本日の協議の進め方に関して、資料2で示された3つの視点ごとのグループに分かれて議論を深めることについて、資料3により事務局から提案され、承認された。
- ・上記承認を受け、各テーマ毎にグループ討議が行われた。討議終了後の経過については以下のとおり。

会長：各グループの皆さん、本当にありがとうございました。それでは、それぞれのグループでどのような話し合いになったのか、3分位で簡単に報告してください。第1グループをお願いします。

事務局（第1グループ担当職員）：それでは、第1グループからご報告します。私がお聞きしたものをホワイトボードに記入しました。

まず、出されたのが、対面とオンラインのそれぞれの良さ、メリット・デメリットを考えてみたらどうかということでした。やはり、公民館としては、基本的には対面が重要なのだということ、皆さんが実感されていると思います。直接的なつながりが広がるのは間違いなく対面で、オンラインというのは、あくまでそのツールの一つなのではないかというご意見もありました。

オンラインの良さは、間違いなく、会わなくてもつながることができる、深掘りはできないが、面的な広がりはあるということ。例えば、若者同士でのつながりなど、そういった意味でのオンラインの良さはある。そのように考えると、やはり、どちらかではなく、対面とオンラインをどのように組み合わせて講座を考えていくかということが、大切なのではないかとご意見がありました。オンラインの活用方法として考えられることの一つが、「制約解消型」です。対面でできなくなったときに、何とかそれを解消するための手段としてのオンラインです。また、コロナ禍をオンライン活用のチャンスと捉えて、これが過ぎ去った後も活用していくという「ツール活用積極型」もあり、公民館の幅を広げるためには、オンラインを活用することも大切なのではないかとご意見もありました。

今回の当グループの討議の結論としては、その講座の内容、目標を考えた上で、対面とオンラインをどの程度ミックスさせるのか考えることが大切なのではないかとということになりました。今後としては、まずはその可能性を探る上でも、オンラインの環境を整えることが大切であり、なおかつ実績を積み上げていく中で、どういったものがオンラインに適しているのか、しっかりと分析を進めて

いくことが重要なのではないかというご意見をいただきました。

会長：ありがとうございました。では第2グループお願いします。

事務局（第2グループ担当職員）：第2グループは、「子どもの育ち・交流・実体験の場となることについて」ということで話し合いを進めました。子どもの居場所がない、あるいは狭められている、また様々な活動が中止になったりということがある一方で、状況を見ながらも活動が再開できたり、会わなくてもできることを探りながら行っているといった状況が出されました。

そういった現状の中で、市民センターのこれからとしては、一つは、地域の学び直しということです。学校では、様々な活動でも、学習でも、何か課題を見つけて深めていくということがなかなかできないところがあるので、そういった部分について、市民センターが持っているリソースや地域の宝といったものを、地域学習などでどんどん発信する中で担っていくことが可能なのではないかと、それが、大人の学び直しにつながる場所もあるのではないかとご意見をいただきました。

また、子どもというと、どうしても学校となりますが、学校は敷居が高いところがある上、今は、子ども達も先生方も疲れていて、負担感が大きい。ただ、連絡会などの場を利用して、何ができるのか探ってみたり、こちらから色々と働きかける、誘ってみるということはできるし、そうしたことが大切なのではないかとご意見もありました。

さらに、今こういう状況にはありますが、やはり何かしたい、できることはないかという思いを持ち、声を上げる子ども達がいるので、その思いを内に留めたままにすることなく、声に耳を傾けながら、具現化する活動につなげていくことが、市民センターにはできるのではないかとご意見もありました。大人でも、自分達にできることがあるのではないかと、活動したいという人がいて、そういったやりたい、動きたい人達をつないでいくということも、市民センターができることなのではないかとご意見もいただきました。

今回は、子どもということで話し合いを進めてきましたが、子ども対象でやろうとしていることはイコール、大人の取り組みにもつながっていくのではないかと、子ども対象の事業だけでなく、大人対象の事業に関しても、お互いに関係性を持たせながら進めていくという観点も大切になってくるのではないかとご意見も出されました。第2グループは以上です。

会長：ありがとうございました。では、第3グループお願いいたします。

事務局（第3グループ担当職員）：第3グループでは、まず、感染に対する捉え方という話題が出ました。

感染症の隔離を例に、今のコロナ禍に対する地域での捉え方は、やはりどこかでひとつ線を引いたり、差別的な意識があるのではないかと。個々人の問題として捉えるのではなく、近所で起きた時、町内会内で起きた時には、集団としてどのように捉えるかという部分があるのではないかとご意見をいただきました。

また、地域でそれぞれの動きがある中で、市民センター事業に関わらない部分、地域の団体同士の関わりの部分について、市民センターがどのぐらい情報として持てるのかということが課題なのではないかと。市民センターがそういった情報をどのように拾っていくのか、組織対組織の関係についてのルール化というものもあるのではないかとご意見がありました。

市民センターの役割として、集い、学び、交わるということがありますが、今は、定員の半数まで

といった人数制限などで、集う機会や学ぶ機会が減っています。そういった一つひとつの記録を大切に  
に残し集めていくことにより、人と人との関わりがより丁寧になっていくのではないかと、その事業自  
体が多面的に見えてきたり、あるいは大切なものが明確になってくるのではないかとというご意見も  
ありました。

また、記録するにあたっては、地域には様々な方がいる中で、伝えようとする方々にきちんと届く  
ように、アナログの部分でも今よりも情報を盛り込んだり、最新のツールを活用しながら丁寧に発信  
していくことが大切なのではないかとというご意見もありました。

さらに、何を残していくのかということも課題なのではないかとというご意見もありました。行動し  
ていることは記録に残していても、その時の人の気持ちといったものは残されているのだろうか、今  
だからこそ、忘れられないうちに人々の気持ちを拾っておく意味があるということでした。

会長：皆様、どうもありがとうございました。通常であれば、会議用に生まれ固定された座席でお一人お  
ひとりにお話をしていただくのですが、そのような進行と今回とは、お話の進み方にどれくらい  
の違いがあったのか。今回は、事務局の皆さんが、事前の準備から今日の当日のこの時間まで、ずっと  
積極的に関わってくださいました。ありがとうございます。そのおかげで、私達委員と各区のセンタ  
ー長の皆さんが近い距離で一緒に意見交換でき、非常に有意義だったのではないかと思います。い  
かがでしょうか。それぞれの3グループの会議記録は、ホワイトボードでの記録とさせていただきます。

今からは、1人1分位で、全委員の皆様方に今日の協議の深め方やご自分以外の他のグループの話  
も含めて、総括の話をお願いします。

委員：今日の会議は、3つのグループに分けて進めると聞いてどうなるのかと思ったのですが、自分なり  
に色々考えることができたような気がします。実は、様々な場所で人に教えたり、色々な形で活動  
していたのですが、この状況の中で何にもできていない自分がいて、ひどくモチベーションが下が  
り、どうしたら良いのか辛く感じていたところだったのです。やはり、このように皆さんと話し合  
いをし触れ合うことで、気分は高まっていくのだと思いました。そこに期待をかけコロナ禍が終息す  
るのを願って頑張っていきたいと思います。

委員：「記録を残す」というテーマで話し合うとなった際、非常に結論じみたことで、このようなことは  
簡単ではないかと。ITを使って進めたいという人達はそれを徹底的に使えばいいし、市民センタ  
ーが対象とする人はそうではない色々な方がいる訳ですから、特に高齢者に対してはやはりアナログ  
的な書類、写真、何々だよりといったものを一つひとつより充実させる、その二つしかないのだと思  
うしそれ以外何も考えられない。市民センターには、地域のため地域住民のための教育という大きな  
テーマがある訳ですから、やはり「集う」ところに一番ウェイトがある。ぜひこれを良い機会として、  
できるだけ近隣地域、それこそ2~3km四方の住民の方達が市民センターにたくさん来られるよう  
な工夫をしてほしい。「困ったときには原点に戻ったら」と私は会社でもよく言うのですが、つまり、  
自分が一番やりたかったことは何だったのかをよく考えるということなのです。同様に、市民センタ  
ーの方も、もう一度、市民センターとは一体何なのかということを考える、本当にいい機会だと思  
います。このようなテーマで話をさせていただき、大変ありがたく思っています。

委員：3つのグループのディスカッションの報告と直前に話された委員のお話を伺いながら、自分は市民

センターと関わりを持つ機会がかなり多いと思っていたのですが、ただ講座でお話ししたりリーダーシップを求められるといった場だけで、市民センターの目的というのは、これまであまり関わってこなかったこと、「集う、学ぶ、結ぶまたは交わる」だということを改めて発見させていただきました。ありがとうございます。

私のグループでの議論ではなかったのですが、第2グループの「会わなくてもできること(手紙)」というのは大切だと思いました。少し前にテレビの番組で見たのですが、戦争中に若者が学徒動員で戦地に駆り出されて、女の人は日本に残っている。残った女の人們たちが、戦地に行った顔を見たこともない人のために手紙を書くという文通があったそうなのです。男の人は現地で亡くなっていたようなのですが、番組で身元を探して、文通相手の女の人と亡くなった方の家族との交流が生まれました。これまで会ったこともない人と抱き合っ、涙の対面をしていました。直接会うこと、対面をすることが、最も時間を分かち合えると思うのですが、一方で、エリアの中でお互いに顔を合わせることはない、深く関わることはない関係の人同士を市民センターや町内会が結ぶ取組みも大切なのではないかと思います。

委員：第2グループで、市民センターの方にも入っていただいて、市民センターの取組みの現状や非常に前向きに何とかしようと思っているお話を聞く機会ができて良かったです。グループ討議で一番良かったのが、言葉のやり取りがとてもスムーズにできたこと、また、一つの言葉に対して色々な言葉をいただけて勉強になるとも感じました。

委員：今日は、グループ討議という新しい取組みでしたが、非常に充実したものになりました。オンライン講義の中でも、ブレイクアウトセッションという小グループでの活動があるのですが、途中で通信が途切れたりして、これほど内容は深まりません。特に面白くうれしく思ったのが、仙台市の方がおっしゃっていたことで、今、子ども達は、東日本大震災の時と同様に、閉じ込められ何もできないような状況におかれて、何か手伝いたい、ボランティアしたい、人のためになりたい、活動したい、知りたい、学びたい、といった意欲が非常に高まっているとのことでした。子ども達のそのような主体的な気持ちを受け止められるのが市民センターなのではないかと思います。

委員：第1グループが「オンラインとリアルバランス」というテーマで討議されていましたが、対面でお話をすることが基本であって、オンライン、ネットといったものはそれを補助するまたはツールとして活用するものなのではないかと思います。私が属した第2グループでは、今、今年やれること、そして次年度につなげることという話が出ました。何もできないではなく、まず、今やれることをやってみて、そして来年につなげるといったことが、子ども達にとっても大人にとっても大切なのではないかと。特に、子ども達は活動したいという気持ちにあふれていると若林区中央市民センターのセンター長さんから聞かせていただいて、そのような気持ちを大人も市民センターもサポートできたら、良い社会になるのではないかと思います。

委員：第1グループに参加しました。「オンラインとリアル(対面)のバランスについて」は、私自身が今直面していることが3つほどあり、皆さんに相談したり、ご意見を聞きたいと思っていましたので、今日は、私にとって大きな学びと気づきになりました。

これまで、色々な市民センターで講座を企画等してきて、対面でしか実施したことがなかったので

すが、このコロナ禍で中止あるいは延期の連続となっていました。1年間で終息すれば良いが、終息はしないだろうとも思われ、どうしていくべきか。9月に、山形の中学生が東京への修学旅行が中止になって仙台に来るのですが、こちらには対面で講演ができる。一方、こちらが向うのことになっていた長野県の高校生への講演は、中止かと思っていたところ、オンラインで実施することになり準備を進めているのですが、オンラインでお話ししたあと、子ども達がワークショップを開くということで、どれだけ内容が伝わるのだろうかと思っていました。ところが、今日の話合いの中で、分析してみようというお話があり、自分の勉強だけでは足りない戸惑うばかりだったのが、状況を分析してピンチをチャンスに変えることが必要だと気付かされました。また、環境づくりも必要です。自分が学ぶだけではなく、各市民センターの職員の方もやはり環境を整えていただく。その上で、オンラインと対面のバランスを取りながら講座を行っていくということが重要だということにも気付きました。区中央市民センター長さんたちの、今まで通りのことばかりでない、他にも幅を広げて挑戦してみようという心意気と言いますか、お話を聞いたことも非常に良かったです。

委員：コロナで制約や暗い話題が多くなってしまいがちですが、むしろ新しいことをする機会と捉えて、色々なことに挑戦してみるということを市民センターでも実施できたら良いのではないかと個人的に思っています。例えば、先ほど市民センターでYouTubeを開設されたというお話がありましたが、それによって、足が不自由なため会場に来れなかった方が在宅で見ることができるようになるといった、今までできなかった新しい価値や可能性を広げる方法として、オンライン一紙でも良いのですが、そういったツールや新しい知恵などを何でも試していくという方向で、この期間を捉えることができれば良いのではないかと思います。市民センターの職員の方々も「コロナなので」ということを言い訳にして、色々な新しいものに挑戦していただけたら市民としてはとてもうれしく思います。

委員：私も第1グループの「オンラインとリアルのバランスについて」に参加させていただきました。コロナ禍で、多くの会合や会議などが中止になったりオンラインになったりで、今までとは色々と違った形の半年を過ごしてきましたが、やはり今日のように対面で顔と顔を突き合わせて、膝と膝を交えてお話しさせていただきながら、テーマに沿って本気で考えて議論していくことは本当に大切だと思いました。とても前向きになれた気がしました。対面というものがいかに重要か、今後もそれが市民センターの基本であることは、絶対に変えられない、また変えてはならないことです。今後ICT化が進む中で、世の中的にはオンラインが増えていき、自然なものになっていくのでしょうが、やはり市民センターは対面を基本にして、今日のように皆さんで一つのことについて考えるという、このような機会は一人ひとりにとって重要なことだと思いましたので、これからコロナはどうなるのか分からないですが、皆さんと共に本気で市民センターのことを考えていくという意味では、改めて自信を持って、何とかなるのではないかと思います。今後ともこういった機会を増やしていただければうれしいですし、今日この機会をいただいたことに感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

委員：私も第1グループでした。皆さんのお話、特に、手紙のお話を聞いて昔のことを思い出しました。中学校時代に文通をしていたのですが、やはり文通だけでは物足りない、直接会って話をしたいと思ったことがあったのです。オンラインと対面のバランスについて色々と話をする中で、文通の際と同

様に、やはり最終的には対面して、会って話をするということが良いと感じました。お互いに話すことにより、気付いたり相手へのリスペクトが増すということがあるのではないかと思います。今日の話し合いも、対面で話して色々な人の意見を聞いて、自分なりに非常に得るものがありました。グループでの話し合いも今回限りではなく、何かの機会にまた実施していただきたいと思っています。

会長：皆様、どうもありがとうございました。本日予定した議事は以上ですが、皆様から何かございますか。よろしいでしょうか。では、事務局にお返しします。

以上

会 長

---

会議録署名委員

---